

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 3 部門第 3 区分  
 【発行日】平成 21 年 9 月 3 日 (2009.9.3)

【公表番号】特表 2009-506176 (P2009-506176A)  
 【公表日】平成 21 年 2 月 12 日 (2009.2.12)  
 【年通号数】公開・登録公報 2009-006  
 【出願番号】特願 2008-528378 (P2008-528378)  
 【国際特許分類】

C 0 8 G 63/78 (2006.01)

C 0 8 G 18/42 (2006.01)

C 0 8 G 101/00 (2006.01)

【F I】

C 0 8 G 63/78

C 0 8 G 18/42 Z

C 0 8 G 101:00

【手続補正書】

【提出日】平成 21 年 7 月 16 日 (2009.7.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ポリエステルポリオール(A)の製造方法であって、

- a) 数平均分子量がポリエステルポリオール(A)のものよりも大きいポリエステルポリオール(B)を、ポリエステルポリオール(B)とは異なる 62 ~ 1000 g/mol の分子量を有するポリオール(C)と混合する工程と、
- b) この混合物をマイクロ波放射に曝す工程を含む、方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 8】

上記方法は、好ましくは溶媒を使用することなく行う。必要に応じて、特別な場合、例えば非常に高分子量および / または対応して高い粘度を有するポリエステルポリオールのために、溶媒を同時に使用できる。

本発明の好適な実施態様には、以下のものが含まれる。

〔 1 〕ポリエステルポリオール(A)の製造方法であって、

- a) 数平均分子量がポリエステルポリオール(A)のものよりも大きいポリエステルポリオール(B)を、ポリエステルポリオール(B)とは異なる 62 ~ 1000 g/mol (好ましくは 62 ~ 400 g/mol) の分子量を有するポリオール(C)と混合する工程と、
- b) この混合物をマイクロ波放射に曝す工程を含む、方法。

〔 2 〕均一なマイクロ波放射場による単一モードマイクロ波放射を使用することを特徴とする、上記〔 1 〕に記載の方法。

〔 3 〕 不均一なマイクロ波放射場による多モードマイクロ波放射を使用することを特徴とする、上記〔 1 〕に記載の方法。

〔 4 〕 マイクロ波放射のエネルギー入力が、少なくとも10 W/lであることを特徴とする、上記〔 1 〕に記載の方法。

〔 5 〕 マイクロ波放射のエネルギー入力が、少なくとも50 W/lであることを特徴とする、上記〔 1 〕に記載の方法。

〔 6 〕 マイクロ波放射のエネルギー入力が、好ましくは200 W/lよりも大きいことを特徴とする、上記〔 1 〕に記載の方法。

〔 7 〕 ポリエステルポリオール(B)が、脂肪族および／または芳香族ポリカルボン酸単位と、62～1000 g/mol（好ましくは62～400 g/mol）の分子量を有する脂肪族、芳香脂肪族および／または脂環族ポリオールまたは必要に応じてポリオール混合物とから合成されたものであることを特徴とする、上記〔 1 〕に記載の方法。

〔 8 〕 ポリエステルポリオール(B)が、200～6000 g/molの数平均分子量および1.9～4.5（好ましくは1.95～3.5）の官能価を有することを特徴とする、上記〔 1 〕に記載の方法。

〔 9 〕 ポリエステルポリオール(B)が、カーボネート基を含有することを特徴とする、上記〔 1 〕に記載の方法。

〔 10 〕 発泡および非発泡ポリウレタン材料の製造方法であって、上記〔 1 〕～〔 9 〕のいずれかに記載の方法により製造されたポリエステルポリオール(A)を使用することを含む、方法。